

これで古典がよくわかる

ハシモト式

古典入門

作家

橋本治

GOMMA BOOKS

<http://goma.mediac.com/gic/>

ハシモト式 古典入門

1997年11月25日 初版第1刷発行

著者——橋本 治

企画・編集——ごま情報センター

発行者——遠藤 励起

発行所——株式会社 ごま書房

東京都文京区本郷二―二七―六 一―二三

電話 〇三(五六八九)〇五一〇(販売)

〇三(五六八九)〇五五一(編集)

振替 〇〇一六〇九一七一一九

印刷

製本

——大日本印刷株式会社

©Osamu Hashimoto 1997, Printed in Japan
ISBN4-341-01807-8 C0291(1047)

¥1100

橋本
治

江戸工業学院図書館
蔵書章

ハシ
エ
式
古典入門



こま書房 B-807
ゴマブックス

まえがき

私は今までに古典の現代語訳とか、翻訳から離れた現代化ということをいくつかやってきました。これからもその仕事は続けるつもりですが、ときどき人から、「どうしてそういうことをするのですか？」と聞かれることがあります。どう答えるかは、その時と相手によって違いますが、そんな質問を受けることによってわかることが一つあります。それは、「今の人に古典は遠い」ということです。だから、じつに多くの人たちが、「なんで古典なんてものが重要なのか？」と考えています。私が古典の現代語訳をはじめたのもそのためです。「古典がどうして重要なのか？」の答は、人によって違うものですが、問題はそれ以前、「あまりにも多くの人たちが日本の古典とは遠いところにいる」ということです。あまりにも多くの人たちが、古典とは関係ないところにいる、はじめから「関係ない」と思っています。古典はそんなものでしょうか？ 古典に焦点があわなのままの人たちに、「古典とはこんなものか」と思っていただきたくて、私はこの本を書きました。

一九九七年九月十五日

はしもとおさむ
橋本 治

目次

まえがき 3

第一章



古典を軽視する日本人

13

1 自分の足もとを軽視する日本人

14

『枕草子』を映画にしまったイギリス人監督ピーター・グリーンナウエイの話
外国のことをよく知っている日本人は、日本のことをよく知らない？ 16

14

日本語教育が軽視されている？ 19

2 すこし日本語の勉強をしましょう

21

「わかりやすい」だけの日本語教育には、欠点がある 21

21

本を読まないとおしやべりになる？ 24

24

成長する人間に「話し方の勉強」は必要だ 25

25

第二章



日本という国にはいろいろな古典がある

29

1 外国語で日本語をやるしかなかった奈良時代

30

どうして日本にはいろいろな古典があるのか 30

30

外国語がそのまま日本語になっていた『日本書紀』 31

『万葉集』を漢字だけで書く—— 32

漢字だけの『古事記』は読み方がわからない 35

2 「ひらがな」と「カタカナ」 37

どうして日本人は、「ひらがな」と「カタカナ」の二種類を作ったか 37

昔の人は、カタカナでカンニングをしていた 39

3 「漢字だけの文章」と「ひらがなだけの文章」が対立していた平安時代 41

『源氏物語』が「ひらがなだけ」になったら—— 41

ひらがなだけの文章はとても読みにくい 43

漢字だらけの文章は、ひらがなを差別する 44

4 男の文章と女の文章 46

紀貫之は、わざわざ「女」になって『土佐日記』を書いた 46

平安時代の男は「漢字だけの文章」しか書けなかった 47

紀貫之は「女流文学の時代」の先駆者 49

5 「ひらがな」の持つ意味 50

国家が認めた最初のひらがな——『古今和歌集』 51

日本人の「心」は、ひらがなが表現した 52

6 「古典の中の古典」が、日本の古典をわかりにくくしている 54

「古典の中の古典」とは 54

それだから、「日本の古典」はわかりにくい 55

平安時代に、まだ「ちゃんとした日本語の文章」は存在しない 56

第三章 「和歌」とはなにか？ 59

1 「和歌」はどのようにして重要なのか？ 60

和歌が重要な『伊勢物語』 60

漢字ばかりじゃ女にもてない 62

清少納言は、漢字がわかる「とんでる女」 63

2 和歌は「生活必需品」 64

「目が合った」だけで「セックスをした」になってしまいう時代 64

平安時代に、ラブレターは「生活必需品」だった 66

「教養」か、「生活必需品」か 67

第四章 日本語の文章はこうして生まれる 69

1 カタカナヲ忘レナイデクダサイ 70

「ユク河ノナガレハ絶エズシテ」の『方丈記』 70

「無常感」とはなんぞや? 72

「ひらがな」と「カタカナ」は、こんなにも違う 74

『方丈記』は、科学する人が観察しながら書いた文章 76

2 「漢字+カタカナ」の書き下し文は、現代日本語のルーツである 78

鴨長明はインテリで、カタカナは「インテリのもの」だった 78

『方丈記』がカタカナで書かれた理由 79

「カタカナ+漢字の文章」は、漢文の書き下し文から始まる 82

3 どうしておじさんは「随筆」が好きか? 83

『元禄御畳奉行の日記』をうらやましが、中国文学の研究者 83

日本は「随筆の国」 86

「書き下し文」がなかったら、おじさんは随筆が書けなかっただろう 87

4 カタカナだらけの『今昔物語集』 89

「説話文学」は、インテリの文学 89

『今昔物語集』は、カタカナが読みにくい 90

「和漢混淆文」とは? 93

5 ひらがなで書かれた「物語文学」は、マンガみたいなもの 94

「ひらがなばかり」でも読みやすい『竹取物語』 94

『源氏物語』がわかりにくいわけ 96

『源氏物語』は、複雑な少女マンガのようなもの 98

「ひらがなの物語」をバカにする光源氏 99

天下一の教養人は「マンガ」なんか読まない 102

6 「物語嫌い」の光源氏も、『今昔物語集』なら読むだろう 103

「物語」は、すべて「むかしむかし」で始まる 103

「昔のこと」は、すべて「本当」である 104

漢字とカタカナで書かれた『今昔物語集』は、みんな「本当の話」である？ 106

芥川龍之介は、「羅城門登上層見死人盗人語」をなんと読んだらう？ 108

第五章 「わかる古典」が生まれるまでの不思議な歴史 111

1 「普通の日本語の文章」が登場する鎌倉時代は、日本文化の大転換期 112

鎌倉時代には「なにか」が変わる 112

鎌倉時代に、京都の王朝貴族たちがやったこと 114

2 鎌倉時代はこんな時代 117

『新古今和歌集』を作った後鳥羽上皇は、文武両道の人 117

鎌倉幕府をひきいる女豪傑・北条政子 119

源実朝は「おたく青年」の元祖 122

3 どうして「古典」というと、平安時代ばかりが中心なのか？ 126

源実朝の和歌に人気がある理由 126

「地方蔑視」は、平安時代に生まれた 127

日本の古典が「平安時代中心」にかたよりすぎているわけ 129

平安時代を歪めたのは、明治政府の事大主義 130

4 もう一人の「源実朝」 133

みんな、「わかりやすさ」に飢えていた 133

もう一人の「源実朝」を知っていますか？ 135

絶望の歌 137

『新古今和歌集』に憧れる源実朝 139

5 『万葉集』か、『新古今和歌集』か 140

『新古今和歌集』の世界 140

絵空事の世界 142

なんだかわからない世界 144

『新古今和歌集』か、『万葉集』か」論争の裏にあるもの 147

いたって大胆な、ハシモト式古典読解法 149

「あしびきの山鳥の尾のしだり尾の」の意味 151

後鳥羽上皇の「万葉ぶり」 154

6 古典の中には「人間」がいる 156

「武の上皇」と「文の將軍」 156

人生いろいろ、古典もいろいろ 158

第六章 人間の書いた『徒然草』 161

1 「わかる古典」——『徒然草』 162

『徒然草』は、べつに現代語に訳さなくてもいい古典 162

「わかる徒然草」と「わからない徒然草」 164

《あやしうこそものぐるほしけれ》をどう訳すか？ 165

「係り結び」の訳し方 167

退屈な兼好法師は、「なに」を言っているのか？ 169

2 兼好法師はホントに「おじさん」か？ 170

兼好法師は、ホントに「おじさん」なのか？ 170

おぼしき事言はぬは—— 172

「おぼしき事言はぬは——」の句読点クイズ 174

「筆にまかせつつ」とは—— 177

3 兼好法師、おまえは誰だ？ 179

兼好法師の「本名」は？ 179

青年ウラベ・カネヨシくんはどんな人だったか？ 180

「あはれ」と「をかし」をどう訳すか 182

『枕草子』を書きたがつたウラベ・カネヨシくん 185

4 古典は生きている 188

二つの『徒然草』 188

話し言葉と書き言葉 190

私が『枕草子』を「女の子のおしやべり言葉」で訳したわけ 192

古典の中には、昔から変わらない「人間の事実」が生きている 193

第七章 どうすれば古典が「わかる」ようになるか 195

1 「読んでください」と言われたって、わかんないものはわかんない 196

祇園精舎がどこにあるか知っていますか？ 196

重要なのは「知識」ではない 198

2 古典は、体で覚えるもの 201

冒頭を暗唱しなさい 201

古典は「昔の日本語」である 202

藤壺の女御はとんでもない「田舎言葉」をしやべる 203

方言は「古典の言葉」の名残り 205

3 古典は腹に力がある 208

「たまふ」をなんと読みますか? 208

イザナギのミコトとイザナミのミコトは、「大声で怒鳴りあう」 209

4 ともかくなんであれ「体」を使う 212

競争原理を導入した百人一首 212

古典は「目で見る」 213

月見れば千々にもものこそ―― 215

古典の基礎知識は、「体」を使って得る 217

5 おまけ 218

おまけの1 専門家だって間違える 218

おまけの2 最後に受験生諸君へ 222

第一章

古典を輕視する日本人

1 自分の足もとを軽視する日本人

『枕草子』まくらのそうしを映画にしてみましたイギリス人監督ピーター・グリーンナウエイの話

ピーター・グリーンナウエイというイギリス人の映画監督がいます。かなり凝った画面の「芸術映画」を作る人です。日本での知名度はそんなに高くないのかもしれませんが、世界的に有名な映画監督です。この人が、日本の清少納言の『枕草子』にほれこんで、『枕草子』という映画を作ってしまったいました。日本でも公開された作品ですから、ごらんの方もあるかもしれません。私は、その映画の製作準備のために日本にやって来たピーター・グリーンナウエイ監督と会って、話をしたことがあります。私は、『桃尻語訳枕草子』ももじりごやく（河出書房新社刊）という形で『枕草子』の現代語訳をしていましたから、「映画を作るうえで、日本のいろんな人と会って話を聞いて参考にしたい」という監督と会って、いろいろな話をしたのです。その時に監督の言ったことで印象に残っているのは、「なぜ『枕草子』がすばらしいか」ということです。

『枕草子』は、今から一千年ばかり前に書かれた随筆ですが、ピーター・グリーナウエイ監督は、そのことにびっくりしているのです。「今から一千年前といえば、我が英国がほとんど「野蛮人の国」と同様だった時代なのに、どうしてこれだけ自由に文章を書ける女性がいたのか」ということです。『枕草子』は『PまIくLらLのOそWう BしOくK』というタイトルで、英語に翻訳されています。それを読んで清少納言という女性の存在を知って、その奔放自在な書き方に、彼はびっくりしたのです。なにしろ彼女は、今から一千年も前の女性で、今から一千年前のヨーロッパといったら、どこだって「野蛮人の国」とそんなに変わらないような時代です——あんまりはつきり言ったらきつと怒られるでしょうが。

この当時の世界の先進地域は中国やアラビアで、ヨーロッパに「文章を書く女性」を求めるのなんか酷です。でも、そんな時代に日本の清少納言という女性は、ずいぶん奔放に自由な文章を書いています。それを読めば、どれだけ高度に進んだ文化が日本にあったかは分かります。イギリス人のピーター・グリーナウエイ監督が感動したところはそこなのです。ところが、今の日本人は、あまりそんなことを考えません。「進んだ文化」といったら、あいかわらずヨーロッパやアメリカだと思っていて、自分たちの足もとにそういうすぐれた過去があることを忘れているのです。これは、とても残念なことじゃないでしょ